

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

平成 25 年度第 2 回学術集会プログラム検討委員会議事録

開催日時:平成 25 年 7 月 12 日(金) 7:00 - 8:00AM

開催場所:東京ドームホテル 5 階蓬莱イースト

出席者(五十音順):川上 守(担当理事)、吉田 宗人(委員長)、田口 敏彦(副委員長)、小森 博達、紺野 慎一、徳橋 泰明、中村 博亮、持田 譲治(業務執行理事)、石井賢(学会報告)、中川幸洋(記録係)

欠席者:永田 見生(委員)、戸山 芳昭(アドバイザー)

1. 報告事項

1)慶應大学の石井講師から、第 42 回日本脊椎脊髄病学会学術集会の終了報告があった。戸山会長のもと平成 25 年 4 月 25 日(木)から 27 日(土)、沖縄コンベンションセンター・宜野湾市立体育館にて開催され、参加人数は合計 2071 名(医師 1876 名)、採用公募演題数は 1069 題、採択率 80.8%ということであった。海外招待講演者は学会招聘が 9 名、国際委員会推薦招聘 海外演者が 5 名であった。

収支は総額 9800 万(予算案は 9000 万)の支出で、予定外の支出は主に海外からの招待者費用関係であることが報告された。持田委員から海外招待者予算は一律に 100 万、というような基準を設ける必要があるということが提案された。

また、会場毎の聴衆人数が時系列に示され、200-300 席が各会場に必要であることが確認された。

2) 続いて、次期会長の吉田委員長から第 43 回日本脊椎脊髄病学会学術集会プログラムの準備状況の報告が行われた。会期は 2014 年 4 月 17 日(木)から 19 日(土)まで、国立京都国際会館においてテーマ「活物窮理」で予定、会場設定と参加者の収容には問題のないことが報告された。Debate を設け、発表時間、質疑応答の時間を長くとること、海外からの招待講演者 9 名が決定していることが報告された。学術集会プログラムのガイドラインに従って、採択率は約 70%とする旨報告された。

徳橋委員より、各企業への統一の趣意書、寄付申し込み書をコンベンション会社に作成依頼しておくよう要望があった。

Sponsored seminars の共催費(食事代含む)増額が決定された。前回に比べて、40万から95万の増額になることが報告された。

徳橋委員から、コンベンション会社への契約と見積には、外国人の手配に関する費用、企業へのブース、ランチョン等手配の代行、を盛り込むことが要請された。

3)次々期会長の田口副委員長より、第44回日本脊椎脊髄病学会学術集会プログラムの準備状況の説明が行われた。会期はH27年4月16日(木)から18日(土)で場所は福岡国際会議場であるが、同時期にCSRS-APも開催予定のため、福岡での開催を要請することになった。学術集会のテーマについて、委員会でメール審議をおこない、川上担当理事がメール審議をまとめることになった。

2. 審議事項

社会保険等システム検討委員会から、日本脊椎脊髄病学会主導による脊椎・脊髄外科手術症例のデータベース作成と全例登録制度の確立に関するシンポジウムが要望されていたが、今回は東京大学小児外科岩中督教授(外保連手術委員長)による教育研修講演「手術症例の登録の必要性とそのあり方(仮)」を予定している旨報告され、承認された。

医療安全に関する教育研修講演、国際委員会からの要望である、English poster sessionsなどは例年通りに行うことが確認された。診断評価等基準委員会からJOACMEQ, BPEQに関連したシンポジウムの依頼があり、それを承認した。

持田委員からアジアからの参加者のために、日本人の authority が英語で講演を行うことを本会でも検討するよう要請があった。

第45回日本脊椎脊髄病学会学術集会については9月下旬までに、複数のコンベンション(現在4カ所)からの開催予算書・見積書とともに会期を決定して学会事務局に提出すると報告があった。

4) その他

次回の本学術集会プログラム検討委員会の開催は

2013年9月19日、午後5時より1時間、日整会 理事会の後に行う

ことが決定された。(軽食無)